

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホームゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10号		
自己評価作成日	平成26年6月11日～平成26年6月23日	評価結果市町村受理日	平成26年7月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0171000433-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様がいつまでも尊重され、自分らしさを発揮できるよう、活気と笑顔を生み出すケアをチーム全体で取り組んでいます。ゆめみの介護10ヶ条を常に念頭に入れ、お祭りに、近所の方々をお招きし、地域との関わりを多く持てるようにしています。日々のケアを提供しております。又、一人一人の希望を取り入れて、個別での支援を多く出来るようにしています。管理者や職員は理念に掲げているご入居者様の残存機能を刺激しながら、ご入居者様の意思を尊重した個別支援の充実を目的としてケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年目を迎える「英生会グループホームゆめみの」は、理念とその理念を具体化した基本方針にのっとり地域密着型サービスを展開している事業所である。「尊厳・個別ケア・安らぎ・市民生活・家庭生活」という考えに基づき、過剰な介護とならないよう本人の持っている力を引き出す介護をしている。「食事を楽しむことのできる支援」では、徒歩10分ほどの距離にある商業施設に買い物に出かけている。利用者は、職員の支援を受けながら、季節の食材を選び献立を考え、調理の下ごしらえや盛りつけ、後片付けなどの家庭生活を継続している。「事業所と地域とのつきあい」では、町内会に加入し回覧板を通して活動内容を把握し、花壇づくりなどの行事に参加している。グループホームに住まう人々が「ゆめみの」という地域で一市民としての生活を全うできるように支援している。事業所主催の夏祭りでは、近隣の住民にグループホームの見学の場を提供しており、火災の避難訓練では、「地域の皆様へ」という文書を配布し、地域住民と利用者との関係を構築している。また、感染症対策・事故防止・身体拘束廃止委員会などを設け、定期的に会議を行い現場の介護職員の意見を運営に反映させている。家族、実習生、ボランティアへ「第三者アンケート」を実施し、その意見を集約し職員間で共有することでケアの質の向上を図っている。また、前回の外部評価受審後に作成した目標達成計画にも真摯に取り組み、目標を達成している。

V. サービスの成果に関する項目(1階たんぼぼアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぼぼ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を名札に入れ携帯する事で、常に意識し、確認できるようにしている。介護方針は理念に基づくよう、会議や日々のカンファレンスの場で活用している。	英生会10か条・英生会理念・事業所理念・基本方針を名札のカードに入れ携帯している。また、事務所にも掲示し、職員会議では自立支援の根拠として理念を確認し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて現状を報告させて頂き、今年の夏祭りは、自治会の方にも協力を仰ぎ、交流の場として活用したい。	事業所主催の夏祭りでは、自治会役員の手伝いもある。課題であった小学校との交流については、授業の一環としての訪問が実現したので、今後も継続していく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行っている夏祭りでは、近隣の方と入居者様が直接触れ合う機会があり、避難訓練の際は、近隣の方に協力して頂き、グループホームの実情や認知症の方への理解と支援方法を知って頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回町内会役員の方やご家族様が参加され、稼働実績や日々の取り組み、行事や委員会の報告を行い、質疑応答の場を設け、様々な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。ご家族様アンケートにより年間テーマを決め配布し、参加が難しいご家族様には事前に意見を伺っている。	家族、地域住民、地域包括支援センター職員及び有識者の参加の下、定期的開催している。各委員会からの報告なども行っている。今後も災害対策に不安があるので消防署員にも参加してもらう予定である。また、可能な範囲で利用者が会議に関わることができるよう検討していく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や、より深く知りたい事等、市役所に伺い、相談や確認を行っている。また、運営推進会議では地域包括支援センターの方へ実情報告をし、意見を伺っている。	市が介護計画の点検を行うとのことで、その内容について担当者を訪問し、確認している。また、町内会より水害対策について助言があり、市に相談している。担当者からは、「運営推進会議に参加して説明します」という協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全・防犯の為に玄関の施錠を行っている。日中は施錠しておらず、誰もが自由に入出りできるようにしている。内扉にはセンサーを設置しており、扉を開けるとチャイムが鳴るようにしている。	禁止の対象となる具体的な11の行為を記したマニュアルを整備し、さらに「不適切なケア」として1項目追加している。月1回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の基本をマニュアルに記載している。身体拘束廃止委員会が中心となり、外部研修にも参加し、習得した知識を委員会とユニット会議で活用し、全職員が学び、意識できるようにしている。		

英生会 グループホームゆめみの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぽぽ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修の参加を通して学び、入居者様の日常生活に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に、ご本人様やご家族様に見学をして頂き、今までの事例も含めた分かり易い説明を心掛け、理解を得られるよう努めている。改定時同様に、分かり易い説明を心掛け、質問にも丁寧に回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時には、積極的にお話しをし、入居者様の近況報告から、疑問点や意見等が言いやすい雰囲気作りに努めている。玄関にご家族様達が外部に苦情を相談できるよう、連絡先を掲示している。	年1~2回の頻度で「第三者アンケート」を実施している。また、来訪時に話された意見や要望は、申し送りノートなどに記録し全職員で共有している。職員の顔写真と氏名を記した掲示板を設置し、家族の要望に応えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に一度のミーティングや、月一度のユニット会議を活用し、職員の意見や提案を聞く時間を設けている。管理者と職員が意見交換できる機会も設けている。	事故対策委員会からは、書き方について工夫したいという意見があり、様式を変更している。また、遅番と早番の業務内容について意見が出され、見直しをしている。管理者は、年2回職員との個別面談を行い個人目標が達成できるよう、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	在診や会議、内部研修等にて理事長と職員が会話をする機会があり、アドバイスを頂いたり意見交換ができる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量や置かれている立場に応じた研修を受講できるよう、年間で予定を組んでいる。内部研修には、公平に参加できるよう、勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内のグループホーム管理者、職員にて『あおいの会』を発足し、毎月の会議で情報交換や事例検討を行っている。年に一度江別市役所から協賛を頂き、あおいの会主催で市民の為に認知症を知ってもらおうというコンセプトのもと、認知症講座を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぼ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して頂く前に、ご本人様やご家族様に見学に来て頂き、ご本人様の置かれている状況や生活する上での不安事等を伺い、担当ケアマネからも思いを伺って、安心を確保する為の情報の共有と関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現状を踏まえ、ご本人様の気持ちやご家族様の思いや不安、希望を伺い、これからのサービス内容と照らし合わせをしながら、どんな事でもお話して頂けるよう努めている。その内容は全職員が周知し、ケアにあたれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画書の初期計画を立てる前に、ご本人様の状態や気持ちの面において必要な支援を多方面から考え、提案し、進めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人の意思や大切にしている事、習慣が継続して生活できるよう努め、入居者様同士で協力し合える環境を作り、関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に参加をして頂く行事を開催し、共に時間を共有したり、面会の時には近況を報告し、一緒に支援の方法を考えたりと、共にご本人様を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の意向を大切に、馴染みの方からの手紙や電話をいつでも取り繋げる事ができるようにしている。また、ご本人の馴染みの美容室に出掛けられるよう支援している。	利用者にとって馴染みの場所は自宅なので、家族の協力の下、自宅に出かけられるようにしている。近所に住んでいた友人が会いに来てくれることもある。また、美容師と家族が協力して送迎し、馴染みの美容室との関係を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の談話の時は職員も一緒に入り、懐かしい話しや楽しめる話しができるよう会話を広げ、一人一人が主役となれるよう支援している。また、入居者様同士の関係を大切に、介入せずに見守る支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぼぼ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて退去された方へのお見舞いに伺わせて頂いたり、入院後に亡くなられた方の葬儀に参列させて頂いている。その際に、ご本人様やご家族様の相談に応じ、対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様から要望を伺ったり、日々の生活での関わりから～したいという希望をくみ取り、コミチャートやセンター方式を用いて介護計画に反映している。	本人の言動や家族から得られた情報を基に、思いや意向を把握している。その内容は、3か月ごとに見直し担当職員が記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から今までの生活歴を伺い、出来る限り今までと同様の暮らしが継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の希望する生活、長年の日課や大切にしている習慣、必要な過ごし方、残存機能の活用について日々カンファレンスを行い、ケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を伺い、職員、ケアマネージャーで必要な支援内容の話し合いの場を設け、細かくアセスメントを行って介護計画を立案している。3ヶ月毎に見直しを行っている。	介護支援専門員・担当職員・計画作成担当者が話し合い本人、家族の意向を基に、現状に即した介護計画を作成している。家族に説明することが多いので、今後は本人にも説明できるよう検討していく意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録ファイルにご本人様が言った言葉をそのまま記載する、日々の生活や体調面を、そう言った背景や根拠も合わせて記載し、申し送り等も含め職員間で情報を共有している。介護計画の見直しにも必要な情報となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様より、散歩や買い物等の外出の希望があった時はもちろんの事、希望として伝えられない方の気持ちのくみ取りを行い、希望に応じられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさん(傾聴・歌)に来て頂き、外部からの刺激を受けたり、楽しんで頂けるような環境作りに努めている。また、地域のお祭りに参加したり、当事業所のお祭りに地域の方々を招いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月二回のかかりつけ医による在宅診療や通院介助を行っている。必要に応じて他科受診の支援も行っている。	事業所の協力医療機関の医師が入居前からのかかりつけ医であるという利用者が多い。そのため医師と本人、家族との関係が保たれている。「医療ファイル」に受診や在宅診療などの内容を記録し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぽぽ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師による健康相談にて、入居者様の状態や職員の気づきや相談事を伝え、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はお見舞いに行き、ご本人様の状態を確認し、病棟看護師にも状態を聞いている。また、週一回の看護師による健康相談時にも最新の情報を聞いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様からグループホームでの看取り、または病院での看取りのどちらを希望されるかを確認している。また、ご家族様の意向が変わる場合もある為、承諾書も一年ごとに記入して頂き、再確認を行っている。看取りに関する指針、同意書、経過説明書等にて説明していく。	「看取りに関する指針」「看取り介護についての同意書」「看取り介護パンフレット」を作成し、前回の課題を達成している。終末期における本人の意向は、家族や医師に任せているということが多いが今後は、可能な範囲で本人の意向を確認していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、それに基づいて対応できるようにしている。消防署が主催している救命講習に参加し、応急手当の重要性やAEDを使用した心肺蘇生法の実技講習を受け、習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練を不定期で行う他に、消防署員立ち合いの下、地域の方にも参加して頂き、夜間想定での避難訓練を行っている。運営推進会議時にも消防署員を招き、講和して頂いている。	年2回夜間想定での火災避難訓練をしており、見守りという役割で地域住民も参加している。水害対策について市に相談しているが地震、水害等を想定した避難訓練は、まだ行ってはいない。	水害を想定した避難訓練の実施を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かけがえのない一人の人間として、尊厳を持ち、人生の先輩として敬意をはらって接している。個別に応じたケアを提供している。	「第三者アンケート」を実施し、言葉かけや対応などの意見を職員間で共有している。記録中のファイルなどは、かごに入れて持ち運びができるようにし、個人情報に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日着る服や、外食等で食べたい物を選ぶ事はもちろんの事、入居者様のその時々やりたい事ができるように支援している。表出が困難な方は、表情やしぐさでその思いをくみ取り、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事時間等、一人一人のその時の気持ちや体調、気分を尊重している。それぞれの日課を大切にし、ご本人様の意向を第一に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は、ご本人様で選ぶことができるよう声掛けを工夫しており、今までのその方らしい身だしなみや装いが保てるよう支援して。		

英生会 グループホームゆめみの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぽぽ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな物や食べたい物を聞き、一緒に献立を考える時間を作っている。買い物も一緒に行き、お店で選んだ食べたい物も献立に取り入れている。月一回の夕食(または仕出し)を楽しみにされている。	献立は法人「栄養会議」の意見を参考に職員が作成している。食べたい料理を聞いた時は柔軟に変更している。移動販売の「ラーメン屋」を呼び止めて、好みの味付けで楽しむこともある。職員は利用者の得意な面を引き出し、煮物の野菜を切ったり、味付け、盛り付けを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が立てた献立を参考にしている。全粥やキザミ食、希望や嗜好、量等、その方の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を観察し、個々に合わせた口腔ケアを行っている。異変があった時は、迅速に歯科医に連絡し、往診依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、個々に合わせて支援している。できる限りトイレで排泄できるよう支援し、失敗の原因や環境はどうであるかのアセスメントを行い、少なくなるように支援している。	昼夜間帯ともトイレでの排泄を行っている。立位が取れる時は排泄パターンや動作を見てトイレに誘導している。夜間にはリハビリパンツや尿とりパットを使用し、日中は布パンツに替えることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況に応じ、服用している下剤についてのカンファレンスを行い、健康相談での看護師からの助言をもらっている。水分や運動が不足しないよう、乳製品等を取り入れたり、レクや時間帯を考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の入りたい気持ちや身体状況に合わせて、週2~4回入浴して頂いている。湯加減やシャワー浴等、個々に合わせ、ゆったりと気持ち良いと思ってもらえるよう支援している。入浴拒否される入居者様には声掛けを工夫している。	午後から入浴を行い、湯加減や時間帯の希望に合わせて、週2~3回の入浴を支援している。浴槽に入るのを怖がる方には、理由を探り足浴やシャワー浴にしている。入浴を嫌がる方には言葉かけを工夫し入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェック表を活用し、個々の睡眠状態を把握している。夜間眠れない方には、なぜ眠れないのかアセスメントを行い、安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リスト、服薬マニュアルを作成し、薬物の効果や副作用も確認しながら、一人一人の薬の内容を把握している。臨時薬に対しても、申し送りノートを活用し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が楽しみごとや残存機能を生かせる役割を持てるよう、生活歴も踏まえ、活動できるよう支援している。		

英生会 グループホームゆめみの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 たんぼぼ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や買い物に誘い、気分転換が図れるよう、地域との交流が持てるよう支援している。入居者様の「今出掛けたい」という気持ちを大切にしている。お花見や紅葉狩り等、四季を感じる事ができるよう外出をしている。	暖かい時期には庭先の花壇を眺めたり、ベランダで日光浴を楽しみ、できるだけ外気に触れている。外出計画で社会との関わりや食べる楽しみの目的を作り、好みの食事を取り入れている。利用者の希望に沿って個別支援での外出が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様がお金を手元を持つ事を希望されているのであれば、所持できるよう配慮している。買い物時、ものを購入する方で、支払いができる入居者様には、ご自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人の方からの電話の取次ぎや、ご本人の希望時に電話をかける事ができるようにと、今までの大切な人とのつながりが継続できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の足音や、声、扉の開け閉め等の生活する上での雑音や不快な音に配慮し、カーテンや扇風機、暖房を細目に調節する事で、快適な環境を整えるよう努めている。庭に咲いている花と一緒に飾ったり、壁飾りを季節毎に張り替える等、季節感を味わって頂いている。	居間の大きな窓から光が入り、1階の窓から花壇を眺めたり、2階ではベランダから外の景色が感じられるなど、家庭的な空間になっている。廊下には貼り絵の共同作品や「作品コーナー」に、押し花を配した団扇などを飾り、利用者と一緒に季節感のある居心地のよい環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士と一緒に過ごすことができるよう座席を配慮し、食事や会話を楽しんで頂いている。ソファやテレビは自由にいつでもくつろぎ、見る事ができる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、ご家族様と相談をし、馴染みの物を継続して使用できるよう持ってきて頂いている。出来るだけ今まで生活していた部屋に近づけ、安心して暮らせるよう配慮している。	居室の引き戸は格子の「明かり取りガラス」になっており、落ち着いた雰囲気である。室内の大きなクローゼットに物が整頓されており、昔馴染みのダンスや置物の他、家族の写真、誕生日のメッセージカードなどを飾り、個人の好みや生活習慣を取り入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を見て分かりやすいように工夫したり、居室内の家具の配置は、自宅で過ごしていた時の位置を参考にし、混乱を最小限に抑える工夫等している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホームゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10号		
自己評価作成日	平成26年6月11日～平成26年6月22日	評価結果市町村受理日	平成26年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人を病気の面から捉えるのではなく、その人らしさを中心に、理念に掲げている、利用者様の残存機能を刺激するため個別の支援を多くとりいれ、一人ひとりのニーズを満たし、いきいきと過ごすことのできるケアを心がけチーム全体で取り組んでいます。開設11年目にはいり、地域の様々な資源の活用や、関わりの中で、地域に溶け込んだ事業所になっていると思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0171000433-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年7月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階すみれアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の介護理念と、基本方針を掲げ、事務所内に掲示している。また、全職員が、理念を名札の裏に入れ、常に携帯し確認しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花壇の整備、花植え、婦人部企画の町内会行事に積極的に参加し、ゆめみの夏祭りや避難訓練開催時には、事前にチラシや回覧で案内文を配布し、参加して頂いている。また、日常においても、利用者様との散歩や、事業所周辺の清掃時に近隣の方と挨拶を交わすなどの交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方に、運営推進会議に参加して頂き、事業所の夏祭り等の行事には、ボランティアの協力をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住民や自治会、御家族様、他事業所、地域包括支援センターの方々に参加して頂けるよう、職員が手打ちのそばをふるまう等工夫をしている。参加者が多様化することで、多くの意見や質問を頂き、会議内容の充実に努めている。また、参加しただけなかった御家族様には、必ず郵送で伝え、職員には、申し送りファイルに綴り周知している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の申請代行時に、新しい情報や資料を確認している。また、わからない事や困ったことがあるときには、小さなことでも市の担当者の方を訪問したり、電話で相談し、対応して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を行っている。職員の不適切なケアについて、報告と話し合いを行い、話し合われた内容は、直ちに職員間に伝え、その都度改善するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の外部研修や、内部での勉強会に参加している職員が多く、虐待防止の意識が強く職場に反映している。また、御家族様やボランティア等に、定期的にアンケート調査を実施し、結果を運営推進会議で報告している。		

英生会 グループホームゆめみの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、法人内の勉強会に参加し、伝達講習として資料を職員に配布している。成年後見人の理解に努め、利用者様の入居時や相談の際は、制度について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は、十分な時間を設け、2名の管理者で書面を読みあげながら説明し、不明な点を確認しながら丁寧に行っている。契約前には必ず、御本人様との面談を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様面会時、必ず職員と話す機会を作りコミュニケーションの向上に努めている。御家族様からの要望や意見は、職員の申し送りノートに記録して情報を共有し、詰所会議で話し合っている。また、身体拘束廃止委員会による職員に対してのアンケートを実施し御家族様・ボランティア等の来訪者に意見を伺う機会を設け、運営に関する内容については運営推進会議で現状報告し、利用者様や御家族様の意見を伺い反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する書類は、全て職員に開示し職員から意見や要望があった時は、都度、個別に聞き管理者が法人運営会議で伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月行っているユニット会議で、職員の意見や要望を聞き、できるだけ各自が向上心をもって働ける様、環境と条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は継続的に行い、出席した職員が詰所会議等で報告している。外部研修では、職員の介護実践の習熟度により選出し行っている。また、研修情報を掲示し職員希望もとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで「あおいの会」という交流の場があり、月1度市内のグループホーム職員が集まり、年1回の認知症講座や交流会を企画開催している。サービスの質の向上に取り組む機会となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活状況を詳しく把握できるよう、アセスメントシートや生活情報シートを使用し、御家族様に記入して頂いている。担当の介護支援専門員からも話を伺い、状況把握に努めている。また、御本人様の言葉や思いを大切に、くみ取る事ができるようコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族様と御本人様に見学に来て頂き、面談の場を設け、不安に思っている事や希望・要望を十分に話し合い、些細な事も伝えて頂けるよう働きかけ、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至る経緯や必要とされている事を伺い、利用者様に対する気持ちにずれが生じないように確認している。入居後の御本人様と御家族様との関係が自然なものになるように、必要な支援を見極め対応策を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中に役割を見出し、調理や季節の制作・花壇作り等、利用者様同士で協力しあえる場面をできるだけ多く作り、利用者様同士の繋がりができるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様面会時には、都度御本人様の様子を報告し情報を共有している。御家族様からも御本人様の情報を頂き、協力し合える関係作りができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の意向を尊重し、馴染みの方からの手紙や電話を常に取り次げるよう配慮している。また、地域の行事に参加したり、友人等が来訪しやすい雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がよりよい関係を築けるよう、一人ひとりの性格や精神状態を十分に把握し、気の合う利用者様同士で散歩や調理をしたり、職員も一緒に会話に参加する等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去された利用者様のお見舞いに伺わせて頂き、御本人様の不安が軽減するよう馴染みの関係作りに努めている。また、退去時には不安等があった際には、いつでも相談に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様や御家族様から希望を伺ったり、担当者を中心にコミチャートやセンター方式を用い、一人ひとりの思いや状態の把握に努めている。また、意志疎通困難な利用者様にも、表情や行動等からくみ取り、希望や意向がかなえられるよう介護計画に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様や御家族様から、今までの生活歴を伺い、これまでの生活習慣を、できる限り日々の生活の中に取り入れ、その方らしく過ごせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や精神状態の変化を把握し、1日の過ごし方を日々のカンファレンスで話し合い、職員全体で共有して支援するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様から希望を伺い、職員・介護支援専門員で必要な支援内容を検討している。また、必要に応じて看護師や医師の意見も聞き、介護計画に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録ファイルに、日々の御本人様の言葉や行動を細かく記録している。記録や申し送りを基に、職員全体で情報を共有して介護計画の作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様より、散歩や買い物・外食等の希望があった際は、都度要望に応じられるよう努めている。また、御家族様の状況に応じて、他院への通院介助も行い希望に添えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の傾聴・歌のボランティアを招いて楽しんでもらったり、地域の花壇作りやいきいきサロンに参加している。また、当事業所の祭りに地域の住民を招いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院より、月2回の医師による在宅診療の他、急な通院や必要に応じて他院への通院介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が配属され、健康相談を行っており、情報を共有し健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添いを行い、介護添書や御本人様の情報を提供し、職員や利用者様でお見舞いに行くなどしている。また、週に1度の看護師長が参加する会議で、入院中の利用者様の情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様より、入所時にグループホームでの看取りか、医療機関での看取り、どちらを希望されるか意志を確認し同意書を頂いている。また御家族様に1年毎に意志の再確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、緊急時や事故発生時には日中・夜間共に、いつでも対応できるよう職員に周知している。またAEDも設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を消防職員立ち合いのもと行っている。また近隣の住民や町内会にも、回覧等で事前に連絡し、訓練に参加して頂いている。災害備蓄品も整備し、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを常に忘れずに、敬意を払い接するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様それぞれに合わせた声掛けをし、話しやすい雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、好みの活動ができ一人ひとりのペースを大切に、希望が実現できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に2度、訪問理美容を利用し、その方らしい身だしなみが出来るよう支援している。		

英生会 グループホームゆめみの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞き、献立に取り入れている。買い物や調理の下ごしらえ・盛り付けを一緒に行い、利用者様と一緒に食事をし、下膳や食器洗いを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回の栄養会議にて、食事形態や感染の対策等を相談・報告し、指導して頂き、献立作りや調理に活かしている。食事・水分の摂取量は、表に記載し健康管理に努めている。また、利用者様の状態に合わせた形態で食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし口腔ケアを行い、週2回、義歯洗浄剤を使用している。歯科往診の際に個人に合わせた口腔ケア等の指導を頂き行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。個々のパターンを把握した上で、問題が生じた場合は都度、カンファレンスを行い、誘導方法の工夫や個々の能力に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携のもと、個別に腹部マッサージや散歩を行っている。便秘傾向が見られた際は、カンファレンスを行い便通に良い食材を提供し、水分が不足しないように工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂けるようにしている。拒否があった場合は、時間をおいて声掛けしたり、声掛けの工夫をし、入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を観察し、必要な方には昼寝を勧めたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬リストを作成し、利用者様の服薬内容を把握している。服用の際は、確実に飲み込んだ事を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様の嗜好を踏まえ歌を唄ったり、塗り絵や季節の作品を作成して頂いている。調理や掃除等の家事も一緒に行っている。		

英生会 グループホームゆめみの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ドライブ・散歩・外食等、一人ひとりの希望に添って計画を立て支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については御家族様とよく話し合い、基本的には利用者様は管理をしていないが、金銭の所持を希望する場合は、御家族様同意のもと所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも自由にかけることができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者様と一緒に、季節感のある飾りを考え廊下やフロアー、居室に制作展示し季節感を取り入れている。また、温度計や湿度計を置き、室温・湿度の管理をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング(フロアー)の他に、デイルームを窓際に設け、少人数で会話したり、一人で過ごせる空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や面会時に御家族様にお願ひし、見慣れ・親しんだ家具等の生活用品が置かれた中で、安心した生活を送ることが出来る様、利用者様の馴染みの物を持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活のあらゆる面での混乱や失敗を事前に想定し、利用者様一人ひとりの力を把握し、過度な介護にならないよう支援している。環境や身体・精神状態に変化があった場合は、その都度カンファレンスを行い、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 英生会グループホームゆめみの

作成日：平成 26年 7月 11日

市町村受理日：平成 26年 7月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害を想定した避難訓練はまだ行っていない。	水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を全職員が身に付ける。	市の危機対策・防災担当の方に助言を頂きながら計画を立て、避難訓練を実施する。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。